

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 25 日現在

機関番号：10101

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2011

課題番号：19720085

研究課題名（和文） アリュートル語音声資料によるテキスト資料データベース構築とそれにもとづく記述研究

研究課題名（英文） Construction of a textual database and descriptive study of Alutor on the basis of unpublished audio materials

研究代表者

永山ゆかり（NAGAYAMA YUKARI）

北海道大学・大学院文学研究科・助教

研究者番号：20419211

研究成果の概要（和文）：

ロシア連邦カムチャッカ半島で話されている消滅の危機に瀕したアリュートル語(チュクチ・カムチャッカ諸語)について 1) 代表者によるこれまでの調査で得られた音声および動画資料、2) ロシアの文化人類学者 V. マリユコービチ氏が 1960 年代から 80 年代にかけて収集した音声資料、3) 同氏による未公開のタイプ原稿および手書き原稿を電子化、その一部を分析し、データベースを作成した(そのうちテキスト 10 編を公開)。また電子化した資料を利用して記述研究を進め、研究成果を口頭発表および論文の形で公表した。

研究成果の概要（英文）：

This project aims to conduct a descriptive study of Alutor (Chukchi-Kamchatkan Language), one of the endangered languages in Siberia, to digitize (1) unpublished audio/video materials recorded by the principal investigator, (2) unpublished audio materials recorded by the late Dr. V. Malyukovich (Russian researcher) during 1960s-1980s, (3) unpublished typed and handwritten materials by him, and to construct a textual database on the basis of those materials. Some results of this research project were presented orally at various meetings such as the General Meetings of Japan Linguistic Society, a symposium supported by Hokkaido University. Some of the texts materials and research papers have been published in journals.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	1,100,000	0	1,100,000
2008 年度	321,050	96,315	417,365
2009 年度	478,950	143,685	622,635
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
総計	3,300,000	660,000	3,960,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：アリュートル語、古アジア諸語、危機言語、データベース、テキスト

## 1. 研究開始当初の背景

アリュートル語はチュクチ・カムチャッカ語族に属し、ロシア連邦カムチャッカ半島の北部に位置する旧コリヤーク自

治管区で話されている言語である。話者人口は 100 人程度と見られており、主な話し手は 50 代以上の世代で、すでに子供にはほとんど継承されていない消滅の危

機に瀕した言語である。

アリュートル語は能格・抱合・語彙的接辞など、ヨーロッパやアジアの大言語には見られないユニークな特徴をもつ。これらの特徴はチュクチ・カムチャッカ語族にとどまらず、エスキモー語や北米インディアン諸語、オーストラリア原住民諸語など、環太平洋地域で話されているほかの少数言語とも共通している。したがってアリュートル語の研究は同系諸言語にとどまらず、これら諸言語における文法上の問題を明らかにする上でも、多くの興味深い問題を提示しうるといえよう。

しかしアリュートル語については過去において若干の記述がなされてきたとはいえ、などその数はきわめて少なく、今後も研究をすすめる上で十分であるとはとうていいえない。アリュートル語がこのまま十分に研究されないまま消滅してしまうならば、言語の本質を探る上で、また類型論の研究をすすめる上でもきわめて大きな損失であるといえよう。したがって、アリュートル語がきわめて危機的な状況におかれていることを考えると、日常生活の中でこの言語を頻繁に使用する話し手が健在なうちに、少しでも多くの資料を収集・整理・分析し記述研究を進めることが緊急の課題となっている。

なお本研究では、代表者がこれまで収集した音声資料に加え、ロシア人の文化人類学者マリユコービチ氏が 1960 年代から 80 年代にかけてアリュートル語カラガ方言を中心に収集した音声資料の整理・分析をすすめてテキストデータベース化することも目的としている。氏の資料は現在の話し手が知らないような多くの情報を含むものであるが、これまでほとんど公開されないままに氏の家族のもとに保管されており、外国人の研究者が利用するのはきわめて困難である。

これらの音声資料を電子化し、データベース化することが同系諸言語の記述研究ばかりでなく、言語学一般の類型的研究にも大きく貢献することは明らかである。以上のような状況から本研究の構想にいたったものである。

## 2. 研究の目的

本研究は、代表者がこれまで収集し、また今後も継続して収集予定の、消滅の危機に瀕したアリュートル語の音声・動画資料および、ロシアの文化人類学者 V.マリユコ

ービチ氏が 1960 年代から 80 年代にかけて収集した未公開の音声資料および手書原稿を電子化・分析し、テキスト資料データベースを構築し、それに基づく記述研究を進めることを目的とする。また研究成果は英語あるいはロシア語により公開し、この分野に関心を持つ海外の研究者や、現地コミュニティのメンバーと共有することを目指す。

## 3. 研究の方法

### (1) 現地調査

現地調査では旧ソ連期に収集された文献資料および音声資料のデジタル複製を行なった。さらに、話者の協力のもとに文法に関する聞き取り調査をするとともに、既存資料の分析および新たな民話資料(音声・映像)の収集・文字化をおこなう。さらに話者を招へいすることにより、作業の共同と効率化をはかる。

### (2) 収集資料の加工と処理

現地調査により収集した資料および過去に収集した資料はすべてデジタル化し、テキストデータベースの形にする。分析が終了した資料には海外の研究者や現地コミュニティのメンバーが利用しうよう、英語およびロシア語による対訳を整備する。ロシア語で書かれた手書き原稿およびタイプ原稿の電子複製は OCR ソフトにより文字化し、ロシア語母語話者の協力を得て校正作業をおこなう。

### (3) 研究成果公開

テキスト資料や研究論文は国内外の雑誌やインターネットサイトで公開する。また、学会・シンポジウムなどで研究発表をおこない、成果の公開と普及をはかる。

## 4. 研究成果

### (1) 現地調査および話者の招へい

毎年 3 週間から 1 ヶ月程度、ロシア連邦カムチャッカ地方において、あるいは現地から話者を招へいして調査をおこなった。調査ではアリュートル語母語話者へのインタビュー、話者の協力による過去の音声資料の文字化・翻訳作業、複数の話者による会話の記録等をおこない、新たなアリュートル語音声資料および動画資料を収集した。

### (2) 過去の音声資料のデータベース化

別のプロジェクトの助成により電子化の終了した音声および映像資料(過去に記録されたオープンリールテープ・アナログオーディオテープ・MD・DAT による音声資料、アナログビデオテープ・デジタルビデオテープによる映像資料)から民話テキストを抽出し、メタデータを付加してデータベース化した。メタデータのない音声資料については、話者の協力を得て資料が収集されたおおよその年代・録音の内容・方言・話者を特定した。

(3) タイプ原稿等の電子データ化

V. マリュコービチ氏によるロシア語で書かれた手書き原稿およびタイプ原稿の電子複製をOCRソフトおよびロシア語母語話者の協力により文字化し、コンピュータで処理する形式で電子データ化した。また、これまでに出版されたチュクチ語・コリヤーク語・アリュートル語のテキスト資料を収集し、電子データ化した。

(4) テキストデータベース構築

収集・加工した電子データからテキストデータベースを構築し、その一部としてテキスト10編を公開した。またデータベースを利用してアリュートル語の記述研究をおこない、次項にあげる成果を発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計9件)

- (1) Nagayama Y., Narodnaia klassifikatsiia ras tenii u nymylanov-aliutortsev Kamchatki (ロシア語による, 英題 Classification of plants by Nymylan-Alutor of Kamchatka), News of Irkutsk State University: Series "History", 査読有, No.2, 2012 (印刷中)
- (2) 永山ゆかり, アリュートル語の分詞についての予備的考察: テキストの用例から, 津曲敏郎・永山ゆかり編『北方人文研究』, 査読有, 第5号, (2012) p.123-139, <http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/49262>
- (3) 永山ゆかり, アリュートル語の所有を表す2つの接辞, 呉人恵編『北方言語研究』, 査読有, 第2号, 2012, pp.23-34, <http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/49250/1/03nagayama.pdf>
- (4) Нагаяма Юкари (Nagayama Yukari), Традиционное использование рыбных и растительных ресурсов коренными народами Камчатки [Traditional Use of Fish and Vegetable Resources by Indigenous People of Kamchatka], Сохранение биоразнообразия Камчатки и прилегающих морей: доклады XI Международной научной конференции [Conservation of biodiversity of Kamchatka and coastal waters: proceedings of XI International scientific conference], 査読有, 2011, pp. 42-51, <http://www.knigakamchatka.ru/pdf/bioraznoobrazie-kamchatka-xi.pdf>
- (5) Nagayama Yukari, Alutor, In: Y. Yamakos

hi (ed.) Grammatical sketches from the field: Concise grammatical descriptions based on primary data (Linguistic Dynamics Science Project Publication Series), Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, 査読有, 2010, pp. 257-302, [http://lingdy.aacore.jp/jp/material/Grammatical\\_Sketches\\_from\\_the\\_Field.pdf](http://lingdy.aacore.jp/jp/material/Grammatical_Sketches_from_the_Field.pdf)

(6) 永山ゆかり, 「アリュートル語テキスト: アンニヤックの話ほか2編」 (Three Alutor tales: A story about Annyakku and others), 『環北太平洋の言語』第15号, 査読無, 2010, pp. 131-146

(7) NAGAYAMA Yukari, Possessor Raising and Noun Incorporation: A Case of Alutor in Russian Far East, Current Issues in Unity and Diversity of Languages: Collection of Papers Selected from the CIL 18 [CD-ROM], 査読無, 2009, pp.2389-2298,

(8) Nagayama Yukari, Factors for Language Decline in the Russian Far East: A Case of the Alutor in Kamchatka, Acta Slavica Iaponica, Volume 25, 査読有, 2008, pp.187-202, <http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/publictn/acta/25/nagayama.pdf>

(9) 永山ゆかり, 「コリヤーク語ミキノ方言テキスト」, 『環北太平洋の言語』第14号, 査読無, 2007, pp.19-34

[学会発表] (計5件)

- (1) 永山ゆかり 「アリュートル語の分詞」, 池上二良先生追悼シンポジウム「北方言語研究の歩み」, 2011年12月17日, 北海道大学(札幌市)
- (2) 永山ゆかり 「アリュートル語の所有を表す2つの接辞」 ワークショップ「ユーラシア北東部諸言語の所有を表す接辞の意味論と構文論」, 日本言語学会第142回大会, 2011年6月19日, 日本大学(東京都)
- (3) NAGAYAMA Yukari, Problems in Sharability of Language Data (Colloquium of Language Documentation Research in Japan: Up until now and the future), The 1st International Conference on Language Documentation and Conservation, March 12th-14th, 2009, University of Hawai'i at Manoa, Honolulu (USA)
- (4) Y. Nagayama and I. Nagasaki, Studies of Paleosiberian Languages in Japan, III Международная конференция по полевой лингвистике [The Third International Conference on Field Linguistics], 19—22 October 2009, Institute of linguistics, Moscow (Russia)
- (5) NAGAYAMA Yukari, Possessor raising and incorporation: A case of Alutor in the Russ

ian Far East, The 18<sup>th</sup> International Congress of Linguists, Workshop 7: Language diversity, 2008年7月21日, Korea University, Seoul (Korea).

〔図書〕(計1件)

高倉浩樹編著, 永山ゆかり他『極寒のシベリアに生きる:トナカイと氷にしのびよる気候変動』, 新泉社, 2012, 第9章「先住民言語の多様な世界」担当 pp.194-214.

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況 (計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕

①ホームページ等  
北東ユーラシアの言語文化/民話資料  
<http://www.ling-atlas.jp/r/tale/list>

② アウトリーチ活動

(1) 北方研究教育センターフォーラム 「言語で巡るシベリアの旅 - 極寒の地に暮らす人々とことば -」(北方研究教育センター主催)の企画・運営・口頭発表およびパネルディスカッション、2011年2月5日、北海道大学(札幌市)

(2) 北方研究教育センター講演会 「ロシアの中の少数言語 - カムチャッカ先住民のパーソナルヒストリー -」講演者リディア・チェチュリナさん(アリュートル語・文化伝承者)の企画・運営、2011年2月18日、北海道大学(札幌市)

(3) 第5回北方研究教育センター・サイエンスカフェ「カムチャッカの伝統文化を歌い継

ぐ - 先住民アリュートル民族の歌と踊り -」話し手 リディア・チェチュリナさん(アリュートル語・文化伝承者)の企画・運営・通訳、2012年2月26日、北海道大学(札幌市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

永山 ゆかり (NAGAYAMA YUKARI)  
北海道大学・大学院文学研究科・助教  
研究者番号: 20419211

(2) 研究分担者

( )

研究者番号:

(3) 連携研究者

( )

研究者番号: